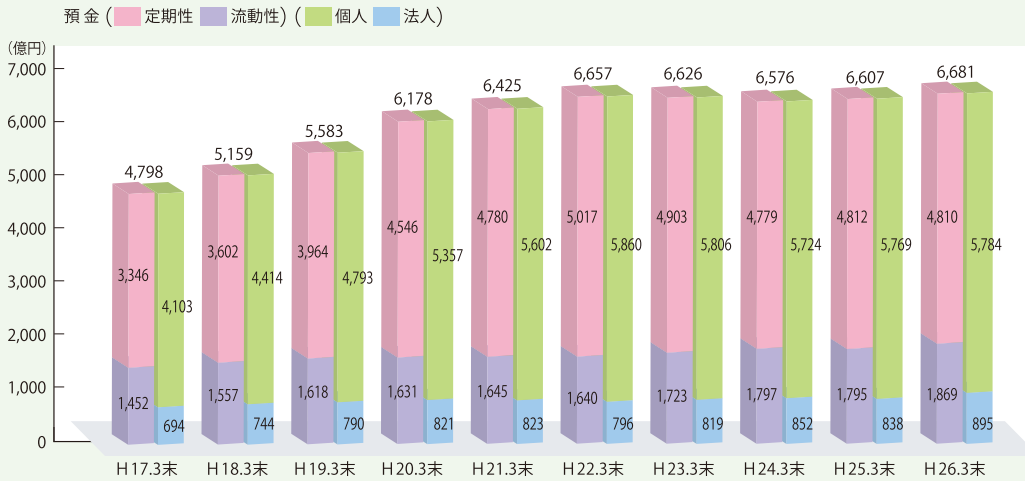


## ● 預 金

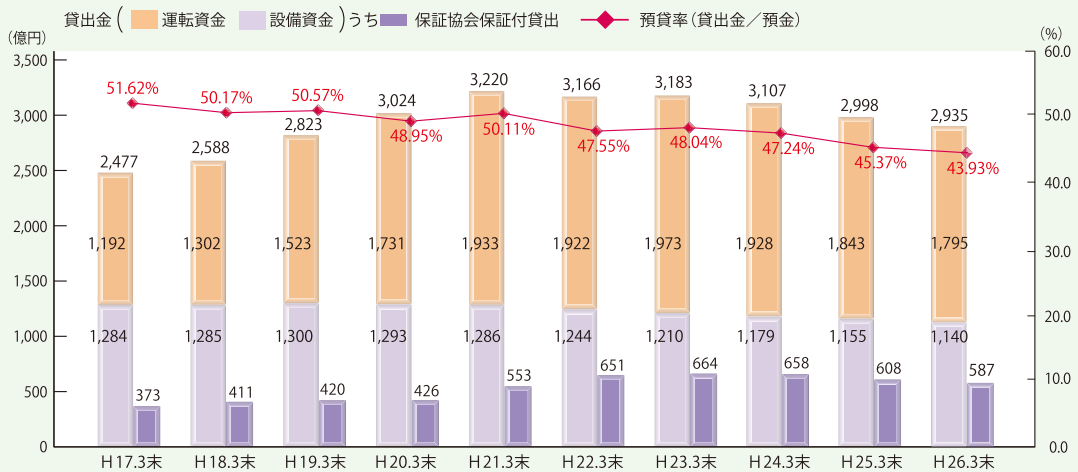


預金は、平成22年3月末をピークに減少傾向にありましたが、平成25年3月末に増加に転じています。平成26年3月末は、タコちゃん定期預金や地域おうえん定期預金などを多くの皆様にご利用いただき、前年度末を上回ることができました。期末預金残高としては過去最高となっています。

また、課題であります流動性預金や法人預金も増加傾向にあります。これからも地元の金庫として、皆様に親しくご利用いただけるよう努めてまいります。

なお、平成26年3月末の預金は、全国267信用金庫中第49位、兵庫県下11信用金庫中第4位となっています。

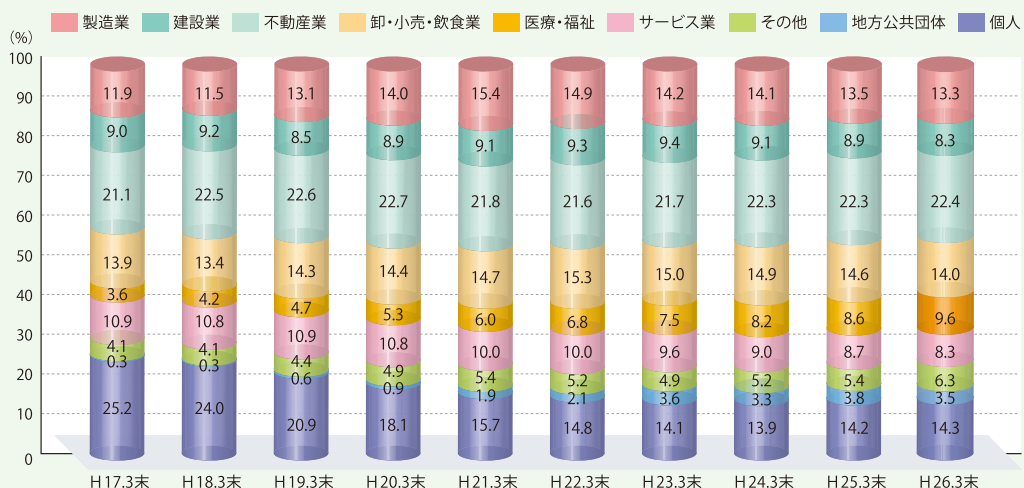
## ● 貸出金と預貸率



貸出金は、平成21年3月末以降減少傾向にあります。平成26年3月末も傾向に歯止めを掛けることができず減少しました。

アベノミクス効果によって景気の好転は見られるものの、地域の前向きな資金需要の回復までには至っていません。厳しい経済環境のもと、地域の皆様にご満足いただけるよう、一層見知を広め的確な資金提供することに全力を挙げてまいります。

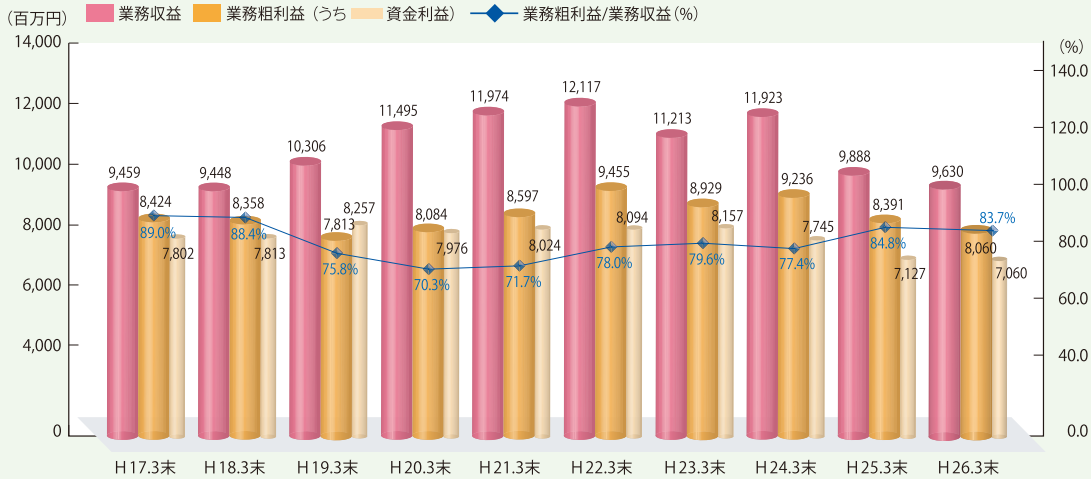
## ● 貸出金の業種別構成比の推移



貸出金の業種別構成比では、製造業、建設業、卸・小売・飲食業、サービス業が資金需要の低迷により低下し続けています。医療・福祉は、ここ数年一貫して上昇しています。

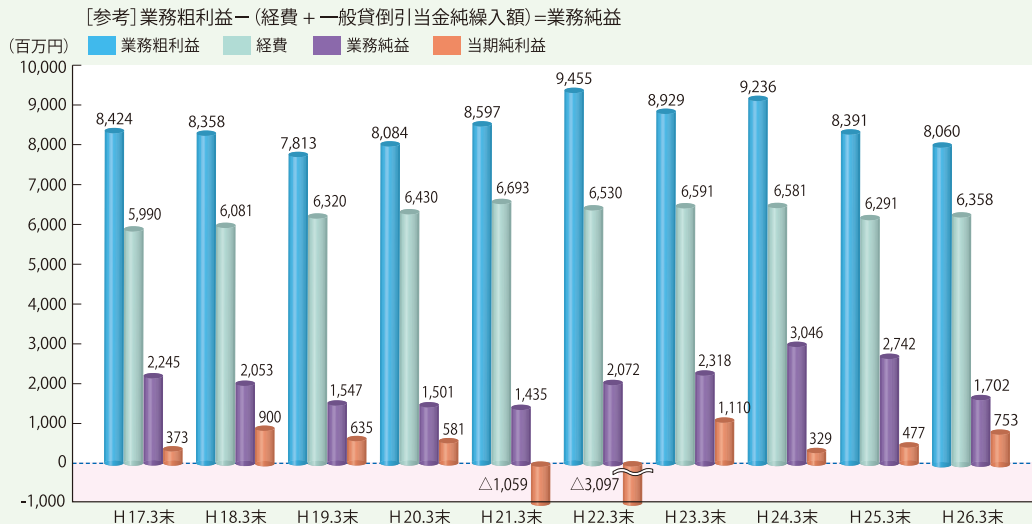
住宅ローンの減少から個人も低下し続けていましたが、消費者ローンの推進に注力したことにより、わずかながら上昇へと転じています。

## ●業務収益、業務粗利益(うち資金利益)



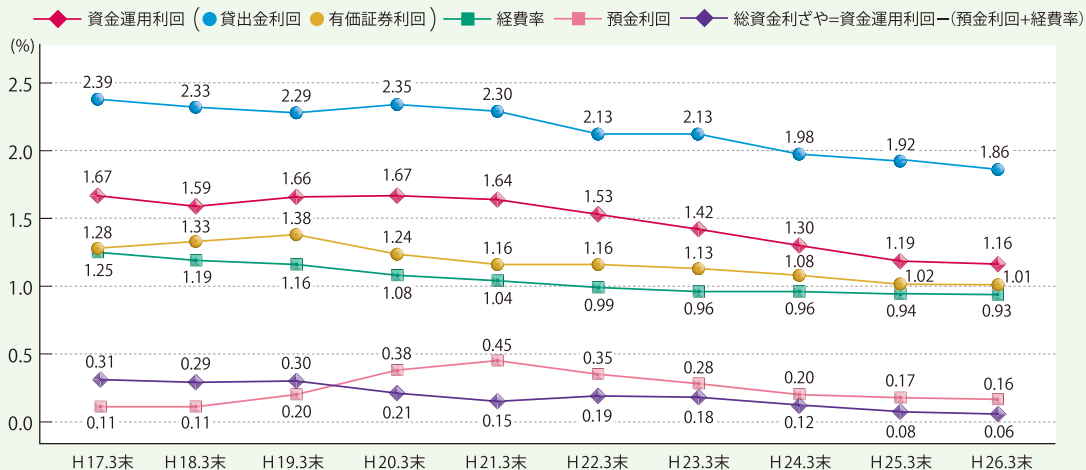
一般企業の売上げに当たる業務収益(貸出金利息収入、有価証券等運用収入、役務取引収入等)は、大きく減少しています。これは金利の低下と貸出金の不振、また国債等債券の売買益の減少によるものです。  
また、業務粗利益(業務収益-預金支払利息等の原価)においても前年対比331百万円の減益となっています。

## ●業務粗利益、経費、業務純益(業務粗利益-経費等)、当期利益



業務粗利益は減益となったものの、不良債権処理費用が前年対比大幅に減少したことにより、当期純利益は、前年対比276百万円増益の753百万円となっています。  
また、業務純益が大幅に減少となっているのは、今年度に比べ前年度の一般貸倒引当金の戻し入額が多額であったためです。

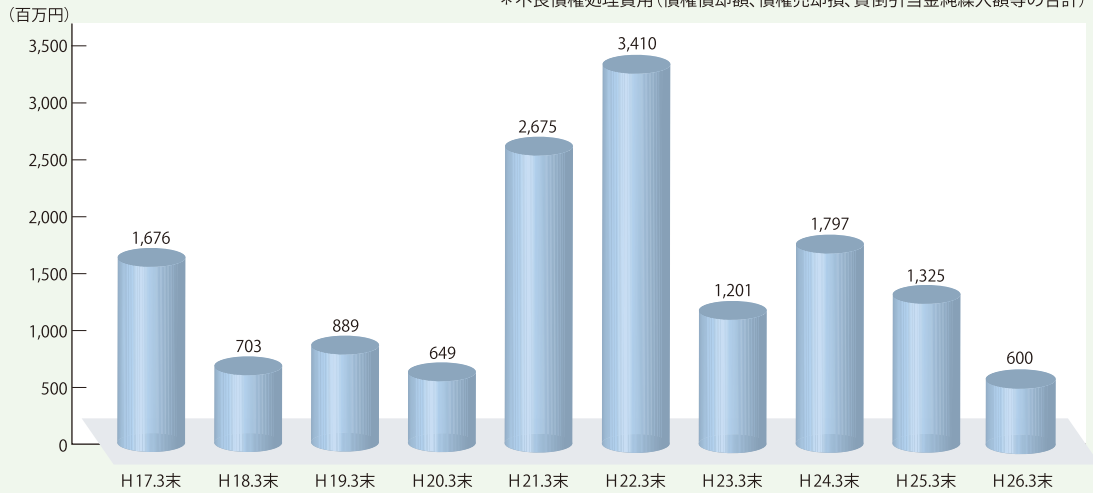
## ●資金運用利回(貸出金利回、有価証券利回)、預金利回、経費率、利ざや



市場金利は低下基調が続いており、貸出金利回りや有価証券利回りは低下し、資金運用利回りは一段と低下しました。預金利回りや経費率も低下しましたが、資金運用利回りの低下幅が大きく利鞘は縮小しています。

## ●貸出金にかかる不良債権処理費用等

\*不良債権処理費用(債権償却額、債権売却損、貸倒引当金繰入額等の合計)

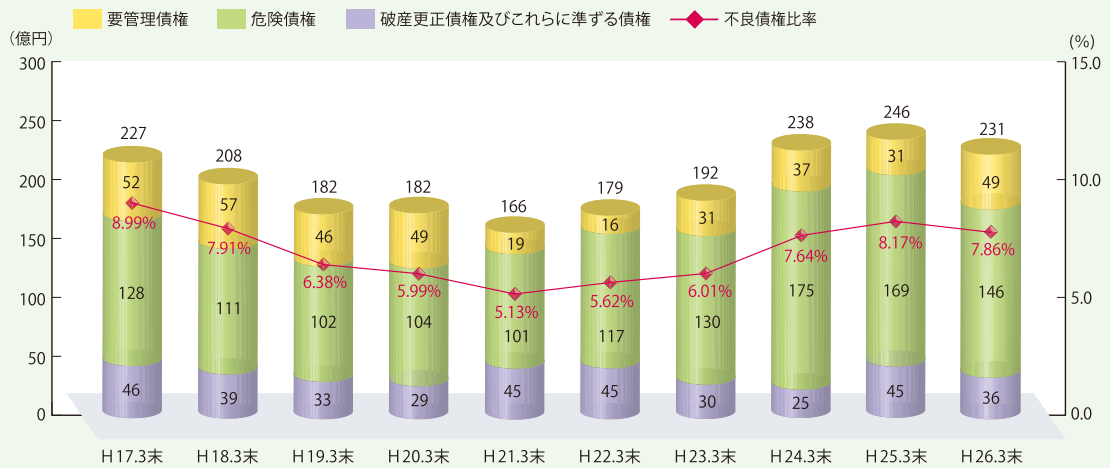


貸出金にかかる不良債権処理費用とは、一般貸倒引当金繰入額、個別貸倒引当金繰入額、債権償却額等の合計です。すなわち、将来の発生を見込んで現時点で算定した損失見込額及び回収不能となって確定した損失額の合計額です。

今期の不良債権処理費用等は、ここ数年に比べ大幅に減少しました。これは不良債権の発生が少なかったうえに経営支援による改善もあって減少となっています。

貸出債権の不良化を防ぐため、経営改善支援や融資審査などの強化に全力で取り組んでまいります。同時に、将来のために引当も十分に行ってまいります。

## ●不良債権(金融再生法上の開示債権)の内訳と不良債権比率



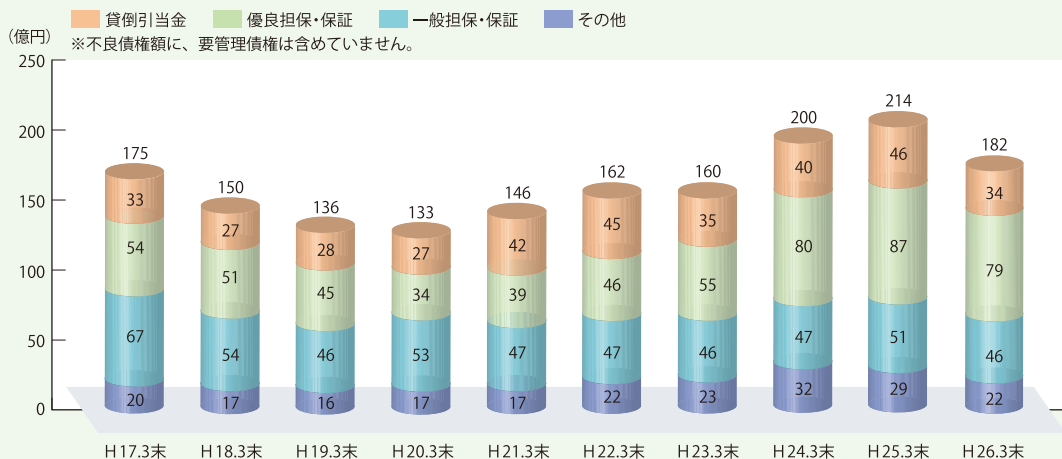
不良債権は、要管理債権、危険債権、及び破産更生等債権に分類されます。

不良債権残高は、ここ数年増加の一途をたどっていましたが、平成26年3月末は減少に転ずることができました。不良債権比率は、平成25年3月末に比べて低下しましたが、まだ高い水準にあります。

破産更生等債権は、未保全額に相当する額を個別貸倒引当金として計上しますので、会計上は完了していると言えます。あとは処理を行っていくことになります。

要管理債権と危険債権をいかに減少させるかが課題です。融資先の経営悪化を防ぎつつ、さらに経営改善の支援を強化してまいります。

## ●不良債権(要管理先を除く)の保全状況

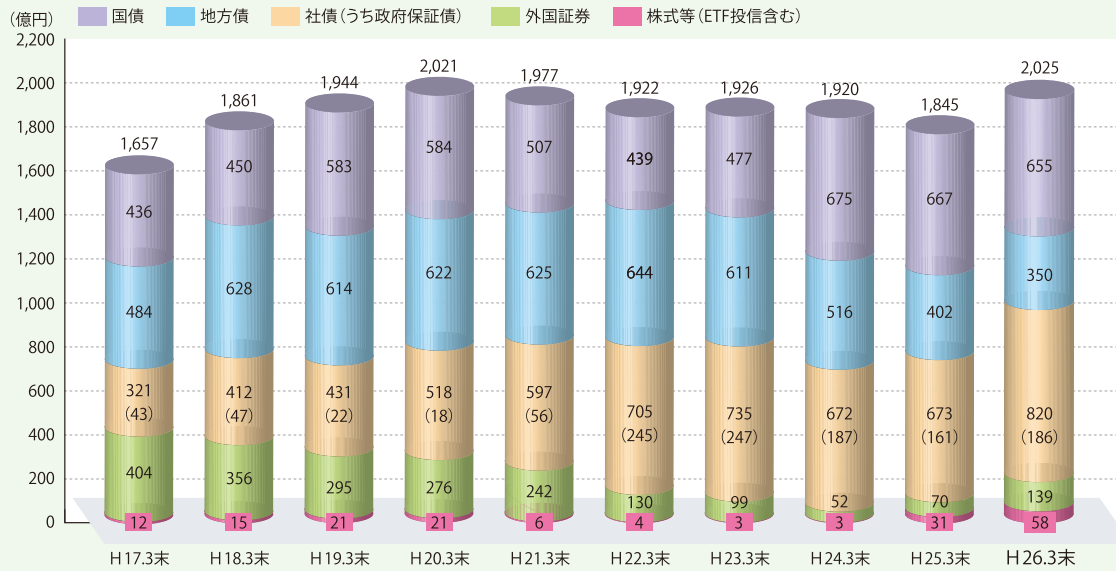


平成26年3月末現在の不良債権は182億円ありますが、その保全状況は上のグラフの通りです。貸倒引当金は34億円で会計上は損失処理済です。

優良担保・保証(保証協会保証等)で保全されている額が79億円、一般担保(土地・建物等)保証で保全されている額が46億円、合わせて125億円は回収が確実であると見込んでいる額です。

残りの22億円は、これまでの回収実績等から見て回収可能と見込まれる額です。

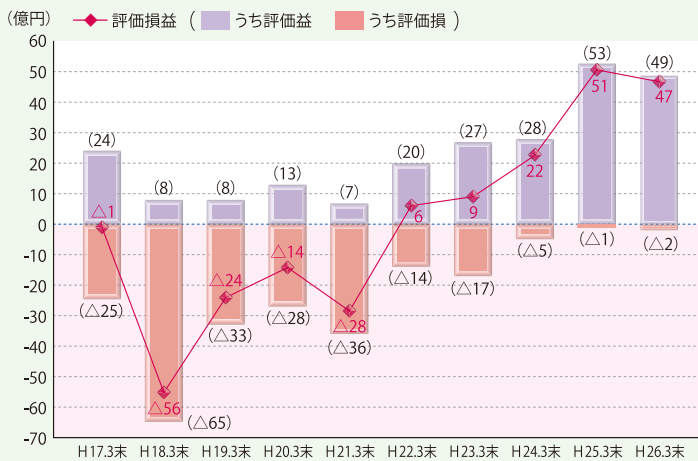
### ●有価証券の種類別保有状況(期末残高) (時価ベース)



国債、地方債、政府保証債を合わせた残高は有価証券運用全体の58%を占めています。市場金利の低下による利息配当収入の減少を補う目的で、国債より利回りの高い社債にも分散投資しています。また、金利リスクを分散するため、国内優良銘柄の株式、日経225に連動するETF及びその他の投資信託にも小口分散投資しています。

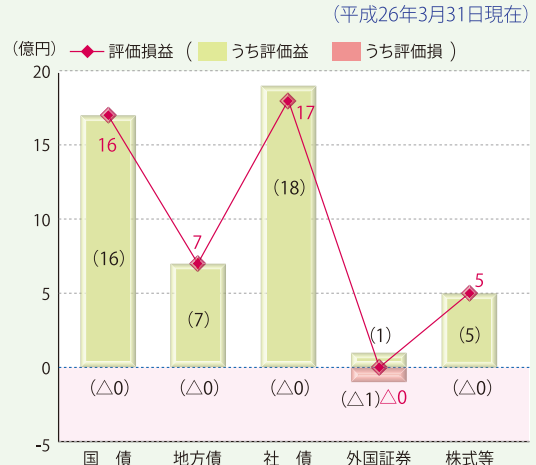
外国証券については、金利リスクを回避する目的で金利上昇時に利回りが上昇する単純な仕組みの変動利付債に投資しています。

### ●有価証券の評価損益の推移



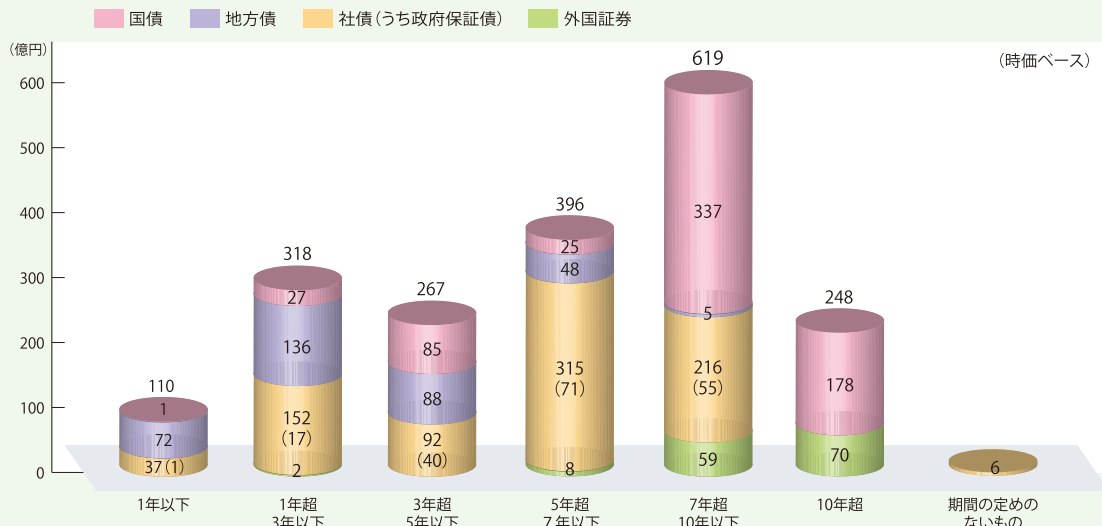
平成26年3月末、有価証券の評価益は49億円、評価損は2億円です。有価証券全体で差引47億円の評価益となっています。

### ●有価証券の種類別の評価損益 (平成26年3月31日現在)



平成26年3月末現在の有価証券の種類別評価損益を示したグラフです。国債、地方債、社債及び株式等は全体で評価益が出ており、評価損はほとんどありません。外国証券は全体でわずかに評価損となっています。

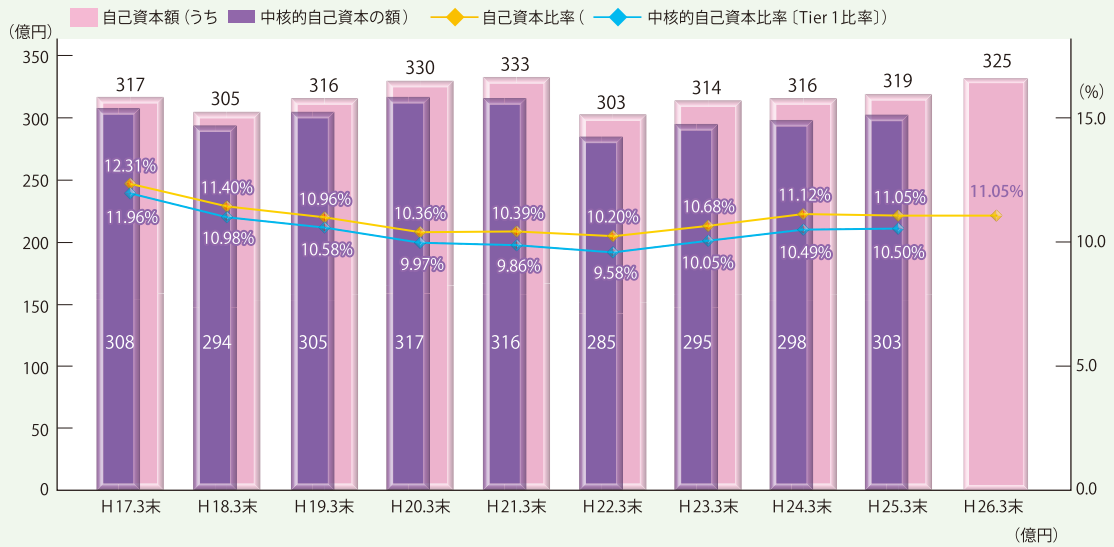
### ●債券(償還までの期間別に見た残高)、平成26年3月末現在



有価証券のうち株式を除いた債券について、その償還までの期間別に保有残高を示したものです。収益向上のため、期間10年超15年以内の国債や外国証券にも投資しています。外国証券は、変動利付債が中心で平均回収年限が6年未満の極めて金利リスクの少ない商品に投資しています。

## ●自己資本と自己資本比率(信用金庫単体)

\*平成25年度においては新告示に基づく開示を行っています。



	H17.3末	H18.3末	H19.3末	H20.3末	H21.3末	H22.3末	H23.3末	H24.3末	H25.3末	H26.3末
リスクアセット	2,573	2,676	2,883	3,185	3,210	2,976	2,941	2,845	2,887	2,946

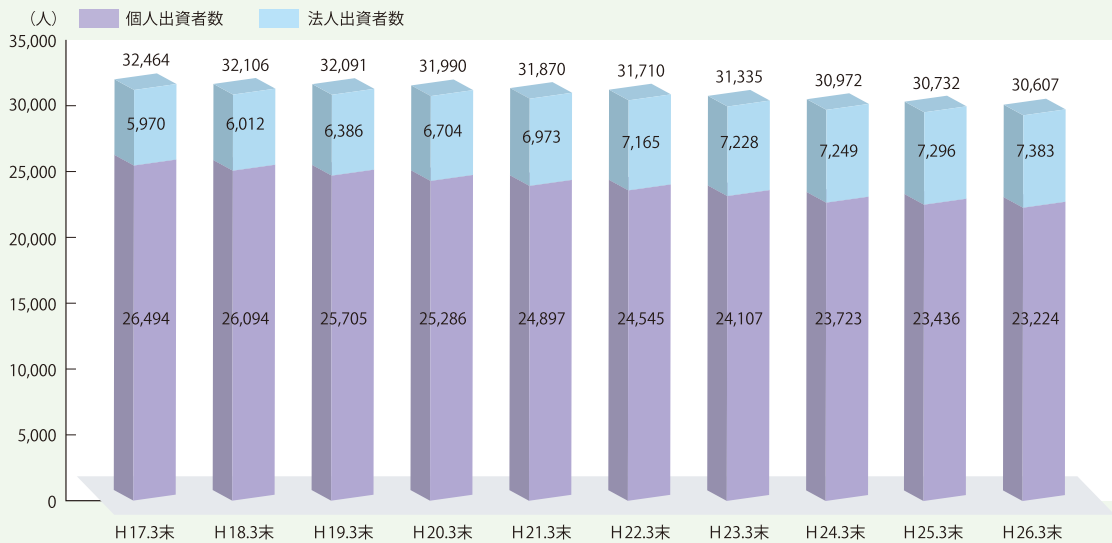
自己資本比率は前年度と同率の11.05%となっています。

当金庫の自己資本は国内基準である4%を大きく上回り、経営の健全性、安全性を十分に堅持していると考えています。これからも、事業活動を通じて得る収益による資本の積み上げ等により自己資本の充実を図ってまいります。

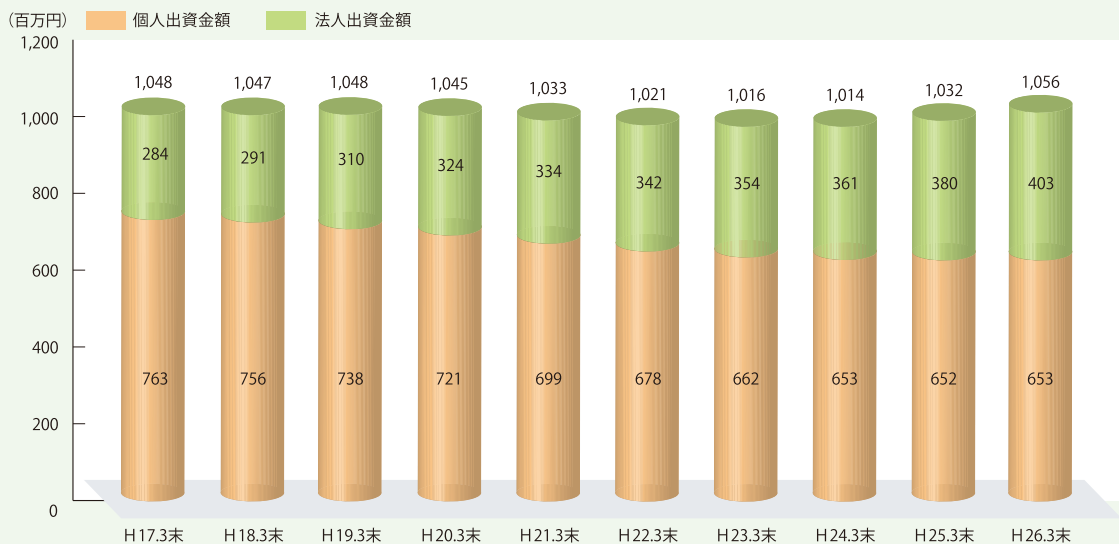
なお、自己資本比率の算出方法を定めた基準(平成18年金融庁告示第21号)が平成25年3月8日改正されたため、平成24年度以前は旧告示に基づく開示、平成25年度においては新告示に基づく開示を行っているため、平成26年3月期から中核的自己資本比率は記載していません。

お詫び:H26.3.末の自己資本額、リスクアセット、自己資本比率に計算相違がありましたので訂正させていただきます。

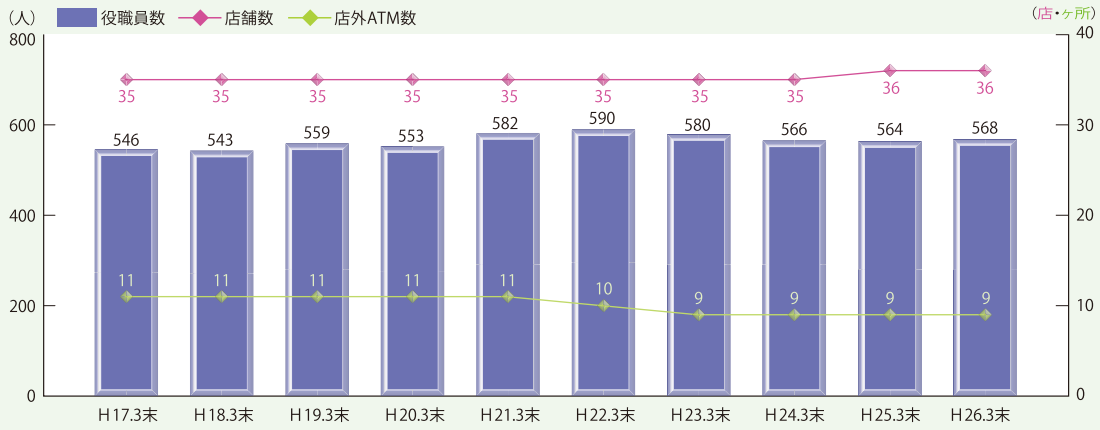
## ●会員数



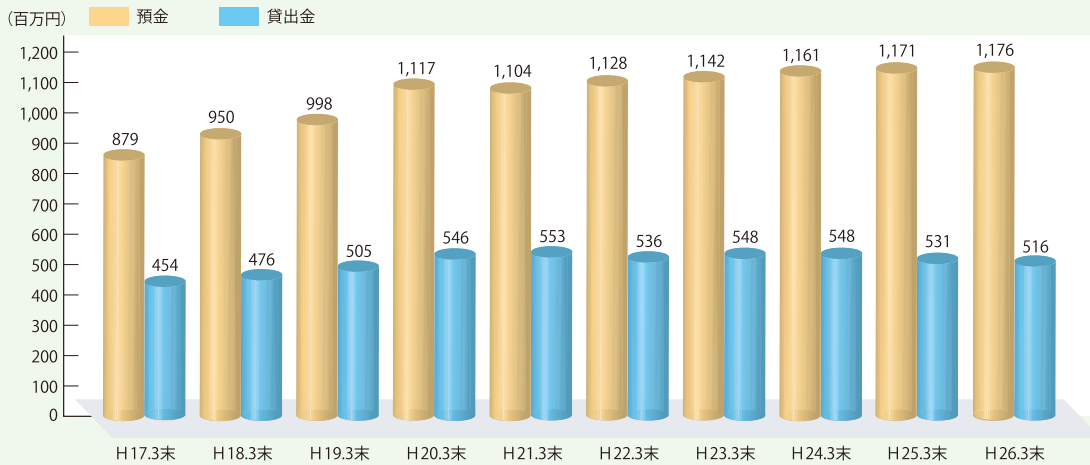
## ●出資金額



### ● 役員数と店舗数

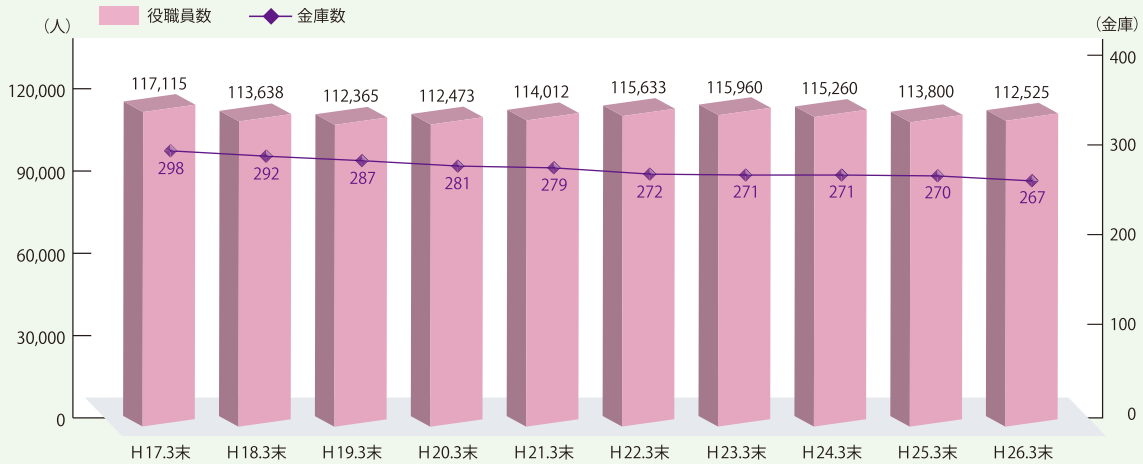


### ● 役員1人当たりの預金と貸出金



## 信用金庫業界の動き

### ● 全国の信用金庫役員数と金庫数



### ● 全国における信用金庫の預金と貸出金

